

(国語)

## 自分の考えの根拠や理由を明確にし、表現しようとする子どもの育成

### —主体的・対話的で深い学びの実現—

大阪 市立友 渕小 学校 研究部

#### 1. 研究主題設定の理由

令和2年度の全国学力・学習状況調査において「相手に自分の考えをまとめて表現する力」が弱い傾向にあり、令和3年度の全国学力・学習状況調査においても、同様に、次のようなことが本校児童の課題として見られた。

- 自分の考えの根拠や理由を明確にして、説明したり書いたりする力。
- 自分で情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの対話的な表現力。

本校の児童が習得している知識量や理解力は、全国平均を上回って比較的よい結果である。一方、自分がもつ知識を生かしながら、本文と照らし合わせ、本文の言葉などを引用して他者に分かりやすく自分の考えを書き表したり、説明したりすることは苦手であった。自己表現する力を高める指導がより必要であると考え、学校全体の指導の重点として捉えた。

どのように「書く力（表現力）」を育成するかが、指導者側の課題である。児童が、自分の考えをまとめて、書いたり話したりする表現活動を国語科の学習を軸に、様々な学校生活の場面で設定することにより、対話的に学び合う授業の充実を図る。令和4年度においても、研究主題である「**自分の考えの根拠や理由を明確にし、表現しようとする子どもの育成**」の実現に向けて実践研究を引き続き行っていくこととした。

#### 2. 研究の趣旨

児童が各学年における本文の読みの技能や用語を習得し、前年度に学習したことを生かして系統的に学習することによって、それぞれの児童が書く力・表現する力をそれまで以上に高めることができていくと考えた。

#### 3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 付けたい力を明確化し、系統的・段階的な指導の工夫をする。

- 単元ごとに付けたい力と、学習過程の中で思考・判断・表現させたいことは何かを学習指導要領の指導事項をもとに学年で共有する。
- 系統的・段階的に次の学年につながっていくよう、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、学年ごとに積み重ねて、資質・能力の定着を図る。

視点② 目的や意図に応じて、自分の考えを表現できる工夫を行う。

- 自分の考えを表す場面の設定
- 書く活動の定着

視点③ 自分の考えを広げたり、深めたりするための交流の場を工夫する

- 交流形態の工夫 「話す・聞く」力の育成

## 4. 研究の成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

#### ○付けたい力の明確化と系統的・段階的な指導の工夫

- ・ 既習事項との関連を考え、単元ごとに付けたい力を明確にし、学習計画を進めることによって、発達段階に応じた言葉の力を付けることができた。さらに、学年で身に付けたい学力を系統的・段階的に積み重ねていくことによって次の学年につなげることができた。

#### ○目的や意図に応じて、自分の考えを表現できる工夫

- ・ 自分の考えをまとめるために、自力解決の時間を授業内に設けることで自分の考えを書くことができるようになった。
- ・ 学習活動の振り返りやまとめなど、自分の考えを書く活動を多く取り入れることで「書く力」が向上し、思考する学習形態の定着化を進めることができた。国語科児童アンケート（年3回）の結果からも、どの学年においても「ノートなどに自分の考えを書くこと」を自分ができる活動として上位に回答しており、活動の定着化と児童自身による力の認識が見られた。
- ・ 文章構成図をかくことにより、自分の主張が明確になり考えが整理され、組み立てを意識して文章を書くことができた

#### ○自分の考えを広げたり、深めたりするための交流の場の工夫

- ・ ペアやグループで話し合ってから全体で交流するなど、内容に応じて交流形態を工夫し、交流活動を習慣的に取り入れたことから、抵抗感が減り交流することがスムーズになった。
- ・ グループ発表用ボードを活用して、出し合った意見を書き込んで、比較・検討をしながら交流することで、友だちの意見から考えを広げることにつながった。
- ・ 一人一台端末のコラボノートを活用した交流では、普段自分の考えを書いたり話したりすることが苦手な児童もさまざまな考えに触れることができ、自分の考えを広げることができた。

### (2) 今後の課題

- ・ 自分の考えを書く機会は増えたが、適切な語や学習した表現の工夫を用いて、自分の考えをより整理して分かりやすく伝える文章作りには、まだ課題が見られた。そのため、文や文章の書き方を学校全体でさらに系統的に学習していくことが必要であると考えます。
- ・ ペアやグループでの話し合いなど、交流形態を工夫し、交流の場を多くもつことはできたが、それを学級全体で共有する手立てにはまだ課題があった。単元の学習活動での時間配分をさらに計画的に行い、発表ボードや一人一台端末を活用するなど工夫して、児童同士で教え学び合う協働的な学びにつなげるようにしていきたい。
- ・ 相手意識、目的意識を常にもてるように働きかける必要がある。また、自分の考えと友だちの意見を比べて、互いの考えの共通点や相違点を明確にし、そこから考えを深められる態度を身に付けるように継続して取り組む。
- ・ 話し合い活動では、基本話型を低学年用・中学年用・高学年用と示し活用を行ったが、まだまだ定着には至らない点があった。学校全体で発表の仕方への取り組みを積み重ねて指導を行い、児童が思考の型を身に付け、自分の考えを筋道立てて説明できるようにする。